

男女が全裸になりお互いの身体を学習した保健の授業

教室の窓から差し込む午後の陽光が、クラスの緊張感を一層引き立てていた。田中先生は、静かに咳払いをしてから話し始めた。

「今日は、男女の身体の違いについて、少し特別な方法で学びます。皆さん、服を脱いでください。ペアになって、異性の身体を観察します。」

太郎は、先生の言葉に驚き、机に手を置いたまま動けなくなった。「こんなことが本当にあるのか？」と内心で問いかけながら、周りを見渡す。隣で花子は、顔を真っ赤にし、視線を下に落とす。「こんなの無理…」と小さく呟きながら、手を震わせる。

教室内は一瞬静寂に包まれ、次第にざわつき始めた。生徒たちは、それぞれ異な

る感情を抱えていた。戸惑い、反発、恐怖、そして好奇心。誰もが混乱の中で、次の行動を探っていた。

「先生、本当にこれをやるんですか？」
と、何人かの生徒が不安そうに質問した。

「そうです。今日の授業は、身体の自然な反応を理解するための重要な一環です。皆さん、勇気を持って参加してください。」
田中先生は毅然とした態度で答えた。

男子生徒たちは、互いに顔を見合わせ、服を脱ぎ始める。シャツを脱ぎ、次にズボンを下ろす。パンツの下からおちんちんが姿を現すその瞬間、女子たちから驚きの悲鳴が上がった。「えっ！」「何！？」「きゃー！」という声が響き、何人かの女子は手で口を覆った。

女子生徒たちは、驚きと羞恥心に顔を真っ赤にし、視線を逸らす者が多い中、好奇心からちらっと見る者もいた。なかで

も、聖奈は好奇心に負けてちらっと見てしまい、すぐに目を逸らした。その瞬間、彼女の視線に気づいた健太は、やや興奮し、自分のおちんちんが少し大きくなるのを感じた。

女子たちは、見ることへの羞恥心と、見たくなる好奇心の間で揺れ動いていた。巴香は、「こんなの信じられない…」とつぶやきながらも、男子のおちんちんを観察し、「気持ち悪い…」と驚きの声を漏らした。一方、さくらは、「いやだ！」と叫びながらも、好奇心に負けてちらっと見てしまい、視線を床に落とした。彼女たちのそんな反応を見て、男子の中には羞恥心から自分の身体を隠そうとする者もいたが、反対に自分のおちんちんを見られる快感に浸る者もいた。

男子が次々と脱衣する中、女子も服を脱ぐことになる。

花子は、ブレザーのボタンに手をかけることさえためらい、周りを見渡す。「こんなの無理…」と彼女は小さな声で呟くが、田中先生の厳しい視線に押され、ゆっくりとブレザーを脱ぎ始める。布地が肩から滑り落ちる音が教室に響く。彼女のブラウスが脱がれると、薄いピンクのブラが露わになった。花子は、ブラのストラップを外し、一瞬ためらった後、ブラを胸からずらす。彼女の乳房は、自然な丸みを帯び、小さくて硬い乳首が緊張からか少し尖っていた。彼女の胸は、青春の象徴のように美しく、白く透き通る肌が見えた。花子は、羞恥心から目を閉じ、視線を逸らす。彼女の胸が微かに揺れるたび、男子たちのおちんちんがさらに硬くなった。男子たちは、花子の小さくも魅力的な胸に視線を釘付けにし、彼女の羞恥心が自分たちの興奮を増すのを感じていた。「花子のおっぱい、小さいけど可愛いな」「こんなに

白い肌、初めて見たよ」男子たちの視線が花子の裸体に集まると、彼女は「見ないで...」と小さく呟き、顔を覆った。

他の男子たちも興奮しながら女子の脱衣を観察し始めた。特に巨乳の女子が標的にされ、あからさまに視姦する男子もいた。「やめて！」と叫ぶ声が聞こえ、男子たちは一瞬見るを止めるが、すぐにまた視線を「おっぱい早く